笛吹市探訪

笛吹市に眠る元新撰組隊士
―立川主悦の墓―

今回は春日居町桑戸にある元新撰組（※1）隊士立川主悦（たちかわちから）の墓を紹介します。

立川は天保6（1835）年に筑前国宗像（むなかた）郡鐘崎浦（※2）で町人の子として生まれました。

立川がいつ頃、新撰組に入ったかはわかりません。慶応4（1868）年3月6日、甲陽鎮撫隊（こうようちんぶたい※3）に新撰組隊士として立川は新撰組局長の近藤勇（こんどういさみ）などと柏尾（かしお）の戦い（※4）に参加しています。

その後、立川は旧幕府軍として戊辰（ぼしん）戦争の母成（ぼなり）峠の戦い（※5）に参加し、敗走します。その後は土方歳三（ひじかたとしぞう）等と蝦夷（えぞ・現在の北海道）へ渡りました。

立川主悦の墓地

明治2（1869）年、函館五稜郭（ごりょうかく）の戦いに土方歳三らと参戦。土方が戦死した時、立川は近くにいました。5月12日、土方戦死の報告を日野の佐藤家（土方の妹の嫁ぎ先）に伝えるために『安富才助（やすとみさいすけ）の手紙』を持ち、五稜郭を脱出します。しかし、北海道湯ノ川で捕まり、秋田藩に預けられます。

秋田藩から釈放された立川は明治5（1872）年頃に佐藤家を訪ね、土方が戦死した時の様子を語り、安富才助の手紙を渡しました。

また秋田市寿量（じゅりょう）院での謹慎中に『立川主税戦争日記』を書き上げています。

その後、立川は斉藤一諾斎（いちだくさい※6）を頼り仏門に入り、全福（ぜんふく）寺で修行し『鷹林巨海（たかばやしこかい）』（別名『獨龍巨海（どくりゅうこかい）』）と改名します。明治8（1875）年には都留市にある西方（さいほう）寺の住職になります。この寺で巨海は歴代住職の供養塔（くようとう）と位牌を自費で作成します。歴代住職の供養塔は総高131センチメートルの日月塔で、上部に太陽と月を現しています。

地蔵院本堂

明治18（1885）年に巨海は春日居町桑戸にある地蔵院の住職になります。その後、明治36（1903）年に69才で亡くなります。墓は地蔵院にあり、墓碑の正面には『当山二十三世獨龍巨海（どくりゅうこかい）大和尚』と、裏面には『大正十三年秋彼岸』と刻まれています。僧侶の墓石は卵の形をした石塔が多いですが、巨海の墓石は先が尖っている船型の墓石を使用しています。また、『獨龍巨海』という僧名も元新撰組隊士としての心意気を現しているように思えます。

地蔵院では元新撰組隊士の菩提をとむらっていたという説もあります。

皆さんも地蔵院を訪ね、幕末の歴史ロマンを感じてみてはいかがですか。

※1　江戸時代末期に幕府に反抗する勢力を弾圧するために組織され、旧幕府軍として戊辰戦争を戦った組織
※2　現在の福岡県宗像市
※3　江戸時代末期に江戸幕府が甲斐国を守るために組織
※4　甲州市勝沼柏尾付近での新政府軍と旧幕府軍との戦闘
※5　1868年8月21日・会津藩境での戦闘
※6　元新撰組隊士・入隊前は山梨県大月市全福寺の住職